青於集

上之

青柳集序

西風梅りのはいかいもむかし
よりハ其西風ありとなくて
て能句よりあらはれ出
西風なりとなくてハ句の西風なる
義俳諧なる事とそん

柳原金

やうとも乃白ふ八翁の西西
れ映起るといふ〜尾張の
國めて侍道乃とも為ま
ものやうなる大露菴の主
ふくるとめるひてそも
の姿情成能をひ出る白し
きこ稽ぶ八て生ゆく

ゑひよりかるる西風ゆう
ないふ八ふ也海ここの芭
蕉翁ふ八ん乃ふ也
人ふ乃藍より毋青しふ
むまとも海とふ海ふ八金ふて
色とも青狂集ふ名作字
ふくせるほふふやもふて海

まことに今年和のことを
と云卯月

富小路正三位貞直卿

勉亭主人如蹊之書

岩室の暮る宵月小袖を着てなども

誰が婿子似かはりて歌のある　芭蕉

豊前小倉櫨庵にあるをむかへて

我背子旅あり世の中ばかりの春　太祇

都ちかきところに年をとりて

薦を着て誰人います花の春　芭蕉

隠居する僧發句す

暁のあの志んとしてうつもの春　太祇

青のうへのみおをまむと
酒のみ松浦をえ日暮とと
森〻緑窓さんしぬ
二ゐもぬうハせしふ屋のうる　芭蕉

あ〻さハ中めへの草の一
元旦やきのふ迄雪ハ幸の空　大雅
さん雪やうらくと雪のみる　同
蓮葉よきうえ伊勢の神たち　芭蕉

黄名虎よ喜きむふとき
三日坂関を影西月四日
大津絵の筆はじめ　芭蕉
人もえぬ妻や鏡のうらみくめ　同
と鉢を忠のそるといへそ梅の色　大雅
子のはしふ新へゆうもむ友もとふ　芭蕉
朱樹叟の古稀の賀金壱
人ゐふさへ歩る迄紳子日ふり

[illegible]

子のひ子雪を掘りて芋うゑけり　大宿

古畑や蕪つゝ伸び買とも　芭蕉

古寺ハ名ばかり也磯の菜　大宿

芹蕪豊のうくひの事　同

蒐蒻ハ[illegible]ハ蕨の[illegible]菜哉　芭蕉

蕨ハ雪のゝ中芹蕪　大宿

一ときせよ一ときつまり蕪の糸　芭蕉

[illegible]

[illegible]の夜菜せゝる芹蕪　大宿

ちゝ[illegible]ハ蕪[illegible]さく畑哉　芭蕉

下葉ハ霜も[illegible]菜のひ数の卵　大宿

春をとゝまるもひの北堂山の雪　芭蕉

人もゝ[illegible]めきぬ雪の葉　大宿

[illegible]の柳のゝ[illegible]のまく　芭蕉

[illegible]ハきぬとる[illegible]の神[illegible]　大宿

[illegible]する[illegible]の先　芭蕉

蕚を紀しまあまく弧燭る　大宿
う皇ぶまの目張のまきやゝ菜畑　同
蕚るゝなけく蕚る聖りけま　同
叶梅ま牛も神蕚つる孚　芭蕉
梅ゝ香の蕚を舫きてのてゝこ　大宿
俵革ゝ有るゝ庵みゝ
るを小事ゝ梅ゝく余所の垣根　芭蕉
住人のゝゝもくゝう蕚の梅　大宿

伊賀ゝ
旅寓古巣ハ樣ゝ梅ゝ郭みゝ　芭蕉
旧雪を如ふ
古さゝハるの古巣もうめ此茶　大宿
阿古久曽の心ハゝ梅乃毛　芭蕉
梅ゝ香やこを也を撫ゝハ多籌　大宿
山さゝハ乃巣逝ゝ樣のゝ礼　芭蕉
馬ゝて宮ゝ豊也うめけ花　大宿

山家

手鼻毛吉さへ梅乃雪うす　芭蕉

壺漬のあこほ結ぶ梅の色　大宿

伊賀の山家にくらふるの
あるじの庭うり畑もうり
蕨こよ冥色ふくてあし
き香あり

香ゆ白く雲母坊園の梅ぬし　芭蕉

ちるうめよ古きふゆいハふうりぬめ　大宿

つ人何葉ちちのくまゆる
色るの紙〳〵〳〵

ツするなよ蕨の中ある梅の色　芭蕉

旅の孫ゑハ紀子鶯うめぬ宿　大宿

妻も中〳〵ハきそのふ月と梅　芭蕉

うめ香ふまさ〳〵〳〵春のくうれ　大宿

梅沼〳〵妻のそろ色俳ぬう　同

里の子等梅折殺せ牛の鞦　芭蕉

梅ハ実のちりつくすいそがりけり　大雅

うめの香ふのみくいのもるる山路哉　芭蕉

樣の宿名ハ嬉嬉とも思ハさる　大雅

いせ此神垣のうめハ梅ひとすじ

子等うゑもの拾ふ只一本あるそ

法子等子の一すゑ庵うめの茶　芭蕉

梅ゝ香や夢ハ覚のある法師ち　大雅

弼代民部の息よあひて

梅の実ハ雅やとり赤やあや梅の色　芭蕉

皆戸只赤るをきゝ知せうめ也　大雅

うゑ咲ゝ梅こふるのくきゝ　芭蕉

人迎き木こ茶せうゑ乃ゝれ　大雅

卓袋亭自祐

自祐や梅ゝ小山伏　芭蕉

るの尾乃琴字へ引蕨の梅　大雅

宝ぬゝ袁ふゝ

曙蘆の奥そのゝ梅　芭蕉

乙刈ゝ江戸へ話く時

梅ゝ葉まりこの宿のとろ汁　同

まをこえよありけハ梅の香ゝきや　大雅

義来ぬ屋敷ゝ〳〵ゝ九ゝ梅　芭蕉

梅ゝちゝ〳〵七ゝの昼ハ小ゝ雨　大雅

うめ咲ゝ志ゝ〳〵落ゝゝ京を良　芭蕉

蕚ゝ〳〵ゝ梅ゝ弓ゝ

梅ゝ〳〵ゝ山家を作ゝ

梅ゝ〳〵ゝのふゝ郭ハぬゝまれ〳〵　芭蕉

うめゝ香ゝ葉ゝゝゝゝみ迄ゝ郭ゝ　大雅

去来のゝ〳〵ゝ〳〵ゝ言葉ゝ

蒐蒻ゝ〳〵ゝゝゝゝ梅ゝ　芭蕉

世の中ハゝゝゝゝゝよ様ゝ　大雅

何葉ゝハ去年の二月十三日

分まかりしを一周忌の追ふ
又梅九子の方へ中きりける
梅ゝ香よむのしの一字哀也　芭蕉
徒ゝ家しの一字色しの梅の色　大宿
梅柳さそふ哀れ鶯のなき　芭蕉
雲を竈に明るゝ燈やふ蓬　同
青柳や洗ひ上げる米五本　大宿
ふるものさびる柳の高へ式　芭蕉

柳ふる風ゝ柳ふるよむ　大宿
八九百年ゝ同ゆる柳式　芭蕉
自然ゝ柳も動ゝ　大宿
傘ゝ押ふ柳ふる　芭蕉
雪ゝ傘ゝ八小まんをれゝ
棹さしもゝ八雪村を為ゝ
青柳ゝ部人の為ゝ
いろも雪もなしゝ人ふ柳ゝ　大宿
同

朝おきの雪を掃るる柳かな　大窪

高砂はなを七とりして柳哉　同

いつまでも柳よ白のえゆる哉　同

夏山の新緑　芭蕉

夏の月ぬれてはなれぬ八ツ橋　大窪

七夕や八橋蜘蛛の糸　同

能因のいにしへ思ふ夏の月　同

夏の人ぬぎ置山のあるじ哉　同

衣ヶ浦みて

夏草のあくむるの色　大窪

いさゆうんより望郎の跡ぬれ

又せくを橋本茶とをるはを

享和寛元如月ヲ旬の頃より

何をこの茶遠ニ千里の芳

今ぞ知る夏ヶ浦のあるるの

如舟ぬ郎ぬ山世尾のつゝ夏

同

蚊の声おつふ雲の中　芭蕉

打しきつめ〳〵降雨乃月　大雀

笠もかたぶけぬ座も春の月　芭蕉

さる田や如庵生の髪のつや　大雀

春雨や苔とのそすそ乃　芭蕉

るともれ峯れ初るも春の雨　大雀

月佳人の名記さて春乃山　芭蕉

さる田さまさふを切ぬ旭の雲　大雀

春雨や蓑ぬ〳〵す川やふき　芭蕉

さゝ〻ぬの笠冒ハいつこ春の雨　大雀

蚊の声や蟬の巣つゝふ屋根乃編　芭蕉

形ゑの春〳〵ぬすやそるれる田　大雀

さる田れ中の月夜彩の山　同

春の松ゝ田求ふ巣て蛙の所　同

伊賀の國阿波の庄彩大佛

丈六ようゝ〻ふるし〳〵〳〵　芭蕉

伊勢の国一ノ宮田千郎氏宅

陽炎や一ノ宮田の社殿　　大宜

枯芝やまこと陽炎その一二寸　　芭蕉

うけらの中を引抜むしろ哉　　大宜

陽炎や戎肩よりつぼ衣　　芭蕉

伊勢の笠胡の京北ふる雪　　同

袖をさらむ田の海士のたまを涼　　同

あふうつる火八何の灯を吹る蛍　　大宜

藻ゆすぐ水も音なし清ぬ屋　　芭蕉

本宮河の跡つゝみて

白魚の柔々ゆく氷雪乃形　　大宜

曙やこゝを白きうす一寸　　芭蕉

こゝ魚つゝみ流る葉のえ外　　大宜

ゑゑ宮や夏き国をあく法のあと　　芭蕉

こゝ宮の苔法ゆゑ

涼とゆて筆ふ汲干清水外　　同

る鈴のさゝそハ解る氷うき　大雅

荘子画像

角ものゑゑとうもう能力蝶　芭蕉

蝶のうろうて鳴うゝ子の上　大雅

蝶のうゑうう浮中の日影外　芭蕉

天八の高音筆うや彩の蝶　大雅

乱よく鄙なよせ舞ぬる力蝶　芭蕉

ちゝ物やこちゝ角る蝶のうけ　大雅

蝶の羽のいく度お中る蛾の屋根　芭蕉

蝶よ形るもの者ゝよ留ヶ村　大雅

古池や蛙飛こむ水の松と　芭蕉

蛙さく宮八也事青北庵　大雅

松嶺手ゝ鳴ゝ蛙　同

なけくゝと蛙ようるかるうま　同

蛙呼ヶ月もおもゝ屋縣うま　同

雨ゝ蛙のゝ集ゝ　同

あきはも幾つ寄せぬ雲雀哉　芭蕉

降り出す河の岡の夕雲雀　大雅

原中や物なつかしき頃の雲雀　芭蕉

雉子も九十九つ鳴かふ雲雀

鶉の羽ふ雲雀の夢の花びら　大雅

雲雀より上ふ仰ぐふ峠の茶屋　芭蕉

我が宿の雲雀あげむとすらあり　大雅

鳥野かすす

父母の志きりよ志ふ雉の夢　芭蕉

海ふ出ふて雉鳴く戸口の夕　大雅

雲雀啼く中の拍子や雉の色　芭蕉

海に雉鳴く山乃影うすし　大雅

蛇くふときけば恐ろし雉の色　芭蕉

山ふるの尾ふ雉の尾ふ日乃流れ　大雅

伊勢かす

神ふ文やもしひもうけし稲穂俵　芭蕉

うき草を踏まぬ時は水鳥の羽をもぬる孫をむし　大雅

湿地舎や自ら為る稲の色　同

是橘の利斐に醫つよ入ぬ水

きり年小瓶のうちに出るまこの蛇　芭蕉

和尚や蓋に坐中を稲ふうう　大雅

老蟬

蛸ちも海苔を小老の書もせて　芭蕉

椎樅の庵を海苔ゆく白ひ式　大雅

如とろくや蓋小食世中海苔の術　芭蕉

海苔汲や洗濯河を濯ぐ頌　大雅

千里うちとふう

の雲汁乃手際又世界の海苔椀　芭蕉

二月堂ゆ義まて

夫婦おとうまの俗の皆北書　同

水元や有繁北俗北小松明　大雅

神路山を如るう西行の洞を

きりぎりす信濃の雲
猫ふまぬ月はあるじかな　芭蕉
何のまれ雲もきりぎりす白ひうれ　同
おもしろうまくよぬうきぬ
花の家蚤さへ高くぬ洞ぶき　大宜
四条より西ぶくり
書紙より雲ら猫の書　芭蕉
恋後ろ新より壁猫しく茶より
恋後ろ新より壁猫しく茶より　大宜

猫の恋やむ時の霜の紅ゐ月　芭蕉
悪ひ恋ろ恋ろ恋ろ撥ぶ猫ぶ　大宜
几帳ふ美人ら画
御猫より画ふ恋ろ来る猫もふ　同
ふ長ふ人ふる
二股より画神ふ鹿ら角　芭蕉
ふ長坂ふかつるさ
徒ふ人ふ美より恋ひぬ鹿の角　大宜

きぬ柳の泥よきまゝ汐干哉　芭蕉

あハ洗ふもうるさし汐干の名残　大雅

住吉汐干見

取メもちく砂白やこゝの海　同

何ぞりとうつる汐干のうきれ雲　同

まゝ子ハ人よ獲り杉尽ら

別墅よりうる

子の戸も住のうる仲を離の家　芭蕉

刻ちうえて社をハうし離の色　大雅

きをと絶て地刻ちうを離の第　同

伏見稲荷社に住ひ立人ふ事せて

家ゑよふ〜えの桃乃事せと　芭蕉

同〜ちうふ〜

桃あ〜て家家ゑ桃のえれ　大雅

子ゑ小桃桃あ事

門人よ南岳雪ゑり

女の手小桃と樗や夕ぐれ　芭蕉

桃樹花白桃の花白桃の花　大雅

姿〳〵俤ふくらみ咲れ　芭蕉

咲乱す桃の中なる神さびし　同

もゝ山ゝ年をぬるなる山さびし　大雅

ゝ川橋わたるもゝふハよきはあり　芭蕉

散よ仏ぬ春白もゝよ神さびし　同

ゝ紅面やなみ雲〳〵海の上　大雅

張郎ゝ去ろをかりゝ春後

ゝゝもゝ又咲ゝをさゝへし

花或ゝ弱後の春〳〵

行つゝゝもゝの花ハ忘ゝ　大雅

京氏七宮七堂伽藍八重桜　芭蕉

花ふゝきゝ氏桑ゝ山あゝ山　大雅

子鷹の鹿ゝ帰らむ山さゝ氏　芭蕉

坂口やなみ尚ゝ人ゝ氏　大雅

廿年を隔てなほ人まなぶ
命かけ川中よ活る橋哉　芭蕉

忘るゝなるなもうの事の外　大雀

山さくら風ふくよの先ふる川　芭蕉

名所川八巻ひあ〜むる月　大雀

探花子の君が詠の巻見
偽させるかなりうす
さまくのうの四八むる橋哉　芭蕉

忘れ歌八のうれ〜月の橋外　大雀

笠のうらふ玄つけ侍る八
芳野まうく橋見せうそ捨木笠　芭蕉

むるやかを当るも壁のむるる　大雀

橋うまきうく日〜此外里山里　芭蕉

橋もそうむの七七そ枕　大雀

扇うく酒うむ源やもる橋　芭蕉

義仲うむかき風八ふるけ里　大雀

水のりかけも鏡もさこそ　芭蕉
菊なを油うけるなを宮まゐり　大雅
年〳〵や橋をおもかの蕊　芭蕉
うゑ〳〵さやの白雪の花の葉　大雅
蕊の雪ふ上野ハ浅草　芭蕉
略も花ゆ口あく清の水　大雅
麦の穂ハ揺ふ明く仕ゑ　芭蕉
ちる蕊をうるやくもの葉ふ竜　大雅

七日霜ふる藤の葉　芭蕉

あるまくの神殿こもりハ
蕊の雪ゆ中もさ〳〵ひもすゑ　大雅
蔵書の蕊ふやりつも蕊ふ　芭蕉
月代やもの蕊ふる堂ゆ隅　大雅
きゑ〳〵くハ蕊のうへある月ゆ式　芭蕉
蕊まゑにまゑのもふ蕊ふ　同
河舟へ羽織ゑけてもふ風　大雅

支考ノ旅立ホ

はきろ推せよむすび一句　芭蕉

菊茶をふまぬ人乃記事乃ち　大雀

むしのさまを無事一株原　芭蕉

琵琶実乃ふ窓ふ掘一本植添る

る日乃茶見ま

ぐさ抜くものふハつく掘うれ　大雀

景清も茶見の塔ハ七ゝ塔　芭蕉

茶のゝにさらふの人乃ゝゝひや　大雀

子ま僧とヤス人まハ花もふゝ　芭蕉

むゝ人ゝもあゝ足ゝ危　大雀

蝶蝶もようき世のむゝ　芭蕉

むゝ旧友ふふ

花ま寿ゝ白髪を伸る茶ひ式　大雀

さひゝさのものあゝ乃羽織　芭蕉

むゝ寿ゝ書き物ゝ乃宿　大雀

旅ゝ旅ゝ五日

世ゝのをもよ礼ふ人ゝの恵ゝ　芭蕉

笠を窓ゝ雨降ゝ　同

七ッ寺ゝ

夕栄ゝ雪ゝの暗ゝ　大雀

紅つゝ

酒のゝゝ伽ゝ　芭蕉

生絹ゝ　大雀

貪ゝゝ始ゝ後の神を愛

笠ゝ　芭蕉

いゝゝ桜ハ咲ゝ　大雀

七ゝ　芭蕉

艶ゝ　芭蕉

西上人乃旅ひ乃笠ハ形自分の夜也ゝ

ゝ　芭蕉

旅ゝ　芭蕉

[illegible]人をとゝめ[illegible]せぬ撫子　大雅

世を捨るもの[illegible]　芭蕉

[illegible]

[illegible]山ハ[illegible]ろの新[illegible]　同

菖蒲の山乃[illegible]を過る[illegible]四方の如[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ろ[illegible]る曙の

[illegible]色いと艶あるふの神[illegible]

[illegible]人の口さ[illegible]

世をひ[illegible]

[illegible]神[illegible]　芭蕉

伊勢乃國[illegible]山の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]山　大雅

二見の浦を拜して

ふたふの潮の茶もうつくしき夏　芭蕉

弘生十九も既ふ暮ぬとするぬ

ちの山ちかくうつる

千ちの橋ちかくと雲うつ空

咲備ふ木も形くに枝もなり

ぬ

栗ふ見を茶也茶のあうり式　大雅

ぬ

伊賀の国花垣の元　芭蕉

南坊の八重撫の料ふ植れ

けるといひつたへ侍る

一さくふふ花字の孫ふ和　同

苦清水と云るとくの水を

茶ふ汲て西上人の住僧さ

まの一あ侍ふるふ

うしの蕎麦ハ打ち再建の房
ふ本像のごとくおがまする
茶の蕎麦ひえてもみえぬ　大窪
露沾公みちの奥
初しの房りも茶の花　芭蕉
国一とふ橋一本をてく秋日
清の方ふ房を望るハちを上る
ちかぢかをとゝ鶏ふかきる

ゝろふ屋
こ流れのむすめ茶の初ゝ　大窪
茶の陰ゝひふ仏ゝる孫弟　芭蕉
湖を眺る
章崎の書ハ茶ゝ蛾光　同
松の色書ゝ為ふいくとゝ仏　大窪
湖のうへハる茶ゝ奥の月　同
奥の松ハ嵯茶ハ初ふく哀也　同

人ふ歩まくるまの春の月　大宿
ゐる度ゑ面ゐ寄ゐ生ゐ春の月　同
ゐゑ寄ゐ物ゐも見ゐ船ゐ　同
ゐるの雁乃ゐ果ゐ春雲
山ゐゑゑの出ゐ星赤ゐ
船の葦ゐゐ暮ゐ船月　同
ゐゐ中ゐ宮ゐも船の学ゐ　同
おゐゐゐ船の中ゐ自のゐ　同

初鹿野

妻の恋や義人神一堂の隅　芭蕉

日ゐゐ
ゐる宮ゐ葉ゐる徒のゐ野ゐ　大宿
歳寄ゐ海の中ゐも春ゐ宮　同
物日ゐ主ゐ一ゐ面ゐゐるのゐせ　同
春ゐふくゐのゐ人誰も春の風　同
ゐる宮中ゐゐ夢の山ゐま　同

妻戸をそっとひらく物の動　大窪

いせ路

道連のなかるゝハ寄る寒の月　同

あるゝゝ

妻戸を出ると入江の色百里　同

寒月や出ると入つゝめる月ら　同

独坐

新菴ハ外ハあらしも妻の尾　同

庭訓乃往来誰ゝ文庫ゝ明の春　芭蕉

歳霜ふ心芭蕉乃書のきゝ梨　同

草菴

妻ゝゝ乃年ふくゝ乃米ゝ本　同

誰ゝ翁ゝそ歯朶ゝ俤貞乃年　同

えゝふ四毎の日ゝそ寒ゝ乃色　同

ゝゝゝ猿ゝ笑せる狙の姿　同

蕎麦ゝ乃ゝ乃つゝゝ乃新乃ゝ　大窪

鶯よ去年に似て鳴鳥ハあらいそ　大雀

つれ人なりの帰國をまちて

海山を越て鳴鶯ありけり　同

鶯に新世の宿縄の小組冊　同

鶯の為にハいりにハとつく　同

鶯の笠落したる椿哉　芭蕉

落ざまに水こぼしけり花椿　同

夜を光る雨ハつゝきし落椿　大雀

梅

此槌の昔椿か梅乃木歟　芭蕉

汐とけの砂やく梅のあらし哉　大雀

青梅に舟乃薪夫代宿を取　同

明や妻乃寿めく梅の花　同

手もとなる庭樹に春ハ来り花　同

春の雪人乃中わに降になめり　同

沫雪ハ籬に消る姿人かな　同

妻ゝ入へきの藤なれとも松ゝ毋の屋　大雅

さるの笑ひ見てとゝ笑ふ雲もなし　同

ゆるゝもありとも思ふ〳〵春の山　同

馬上吟

きさらぎの戸張山端の屋根の苔　同

山路来て何やら床しすみれ草　芭蕉

すゝ竹に雪ちるゝ音ハあらし也　大雅

呂丸か旅ゆく記するを聞て

岩田川うゝ沙の影ハ塚の堂ゝ　芭蕉

庵ゝきハさきをうるよ夫ゝ桜　大雅

木ゝの情雪ゝ生めく春の芽　芭蕉

芝ゝ丸ゝ雪ニほゝ見ゝ蝶乃穴　大雅

草ゝ人ゝ為ゝ柴ゝ戸ゝ閉ゝ家　芭蕉

有職の人ゝ為ゝ一ゝ

梅の名を先とゝ萩乃為柴弟　同

蕎麦つハ蓆の為柴ゝ　同

春の雪ふるとうもふるうも　大宿

冷至の戸ぬけ出る新春の雪哉　同

大佐田誠

老猿の木の芽を食ふ斷哉　同

高見峠

白雲を高ふ尾の聲の折〳〵哉　同

菩提山

山寺の名ばかり岩よ雪老ぬ　芭蕉

藤堂橋本子ゆく

古寺や雪もよ鐘を聞遠し　芭蕉

雪あるもあるも岩あるも

なるふ我をとゝぬ人あり

その影を宮めあれ春の月哉　大宿

旅泊

丁子屋の名ばかり思ひ出ん　同

夕月をたゝくゝ待て丁　同

あるゝ程を聞るもあるもの　大雇

中〳〵年も山路の月あり　同

秋惜み丁〻足曲も沼乃面　同

不易を知る人実に寒極る

変化新る変化せぬ老人侘ぬ

たまゝ改まる人自然也

えゝ花乃変化人変のあはみあり　同

蹶躇泥まぬ雁より鶴翁女　芭蕉

暮雪亭

蹶躇足のゝふを吟ぬ蒲亀　大雇

雪よ泥ふ雁〻を初乙る　芭蕉

燕乃下ゝ綱ふ沸馬れ　大雇

燈乃〻〻燒帯新ゝ　芭蕉

雁子と年明ふ年乃業　同

西ふふさを雁代見物　大雇

ゝ山路ゝ紅葉の音　芭蕉

山吹の河原なるめせの露　大雇

山ふきや笠よさそへき枝の形　芭蕉

やまふきハ真るとそ色香なる　大雇

山吹や流の焼場の白ふ時　芭蕉

山吹をおりて神けそ多ー　大雇

山吹よ様せるきそのあの形　同

山吹の多ち葉のもとのうこち鳥ふる　芭蕉

葉のもとのさそ河原の山吹　大雇

葉のもとのさくもの七郎　大雇

こまちなるなのこ様の茄子種　芭蕉

黄代の田の住そるハそ物　大雇

音すそ黄代の山のそ川　同

種芋やもの墨ふり色雲ふ　芭蕉

富そ川音の岸乃橋廻　同

伊賀人の住嘗そふ名を見そ

濱荻の名を國振の芦もの　大雇

活〳〵搗まちがりの中　大雀

メ元ハ春のそらのほそ道　同

いせをのうらうらとして熟田の

穂〳〵

ゆふちく〳〵蜆かちくまで浮　同

蓮の池略の蓮のかる　同

膳所へ中くんの

猟のまつりの弟よ猟田の奥　芭蕉

[illegible]

鉢の子が白魚漁る[illegible]　芭蕉

[illegible]

妻恋のいろはるゆるのつ　大雀

大和路

のくさもつるみもしる秋そ　同

つゆ星ハ何をうるの暑　芭蕉

雨をそるるの天も春の夜　大雀

美濃ふく

冨士さへ何ぞ一茎の竹ぶし　大雀

あつく成て千歳ふる

青苔の古きさくも紫の色　同

竹もつるるのうらく竹ふる雨

をうしきはふし

新菜八蘭ゐ莫蕎麦の姉このもの　同

竹ぶしを夏の粉餅ふさぐこそ　芭蕉

うらやましうき世の小乃山桜　芭蕉

河茶弛もむよ者ゐるる小鮎　同

自皆自得

茶ゐ楽枝転ふらひそな雀　同

ら紀毛ゐ電ゐとうれて濃の上　大雀

藤の巣も乙らゐ乃熱鍋　芭蕉

山家

鶯の巣ゐあしの和乃鶏ゐ　同

吾門にも入よせむ二本杉　芭蕉

松碩ら酒窟堂ふく

四方より毛吹入く　同

肅山のうとめふく　擬雪ら

雨る葵ら漬ふ

茅毛ゆうるゆ　同

信專吟行

鶯の毛は黒きやなの実　同

何もあきなひ雀の幸哉　大雀

寝ぶくの鳥まつ捨ひ物りの

おのもと鄰をあるうめの梅

をちのまつ聲ゆまつる

夏をしく　鄰家より猫乃呼ぶる　同

游西書屋

夏の月ゆうもまる書の月　同

葉留ゆ毛人無ゆる雀ゆ事　芭蕉

葉のむ乃中乃うぐひす　大雀

子部〳〵宿るしるべ乃ゆ　芭蕉

一家皆長生ゆ歌の秋乃

百四才と不を望〳〵

あり〳〵ある世の中ら乃の也　大雀

薩摩の国牧原のさまさま

色色ら乃馬染ゆ藤乃花　同

誰ら袖ら つい〳〵も蝶い影也　同

雨中陽炎

春日や蕨末の彩ら田ゆ井ゆ　大雀

桜ゆ也〳〵藤而ゆ世ゆて花ら

藤ゆ夜乃ら乃ら乃心よ

也ゆ梅ゆ見も彩ゆ欲岸の巣　芭蕉

住〳〵ゆ影を探ら〳〵

空ゆ見る乃ゆ写別る蛙の声　大雀

ゆこ住ゆ中〳〵ゆ蛙ゆ　同

上望の如くさかりけるうへ人々
幕打さらさる物の音ふるさの
事さまく成るうへうの私
うけをうへ〳〵
四ッ山雲乃掛ハ如ぬ見えんかん　芭蕉
紙途ニ千里のかなとひ
胸ふさうの星さう
秋寒ク成る時魚乃眼ハかなし　同

中〳〵嘉のあり〳〵失もかきあの辺乃事　大窪
秋さるこ和ぬれらうあうあう遅生乃
秋一ま後〳〵嘉の乃ぬつく鳴根乃　大窪
中〳〵青をあふこの人を物ゝ乃
岩梅咲るあり〳〵　芭蕉
馬乃穴の乃業見乃乃鳴の夷　大窪
乃ゝ乃こ世を乃る乃事よ撰り見　同
樵の末乃郎よう乃ハ鳴の乃　芭蕉

流るゝ水も一時ハ真の月　大窪

なくなくきゝ入せる新古の歌　同

鰹汁の青梅やとるゝ月の

ゝ哥和歌の茶ゝ振く扶乃　同

名所の書ゝふゝせゝゝて

遠の海ゝとゝさゝんせゝまる北山

大巣なくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝ也ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

茶をおゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

切合ゝゝ神ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

二ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　大窪

ゝの茶ふゝ梅ゝゝ西のゝ

四ゝゝ國ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

茶ゝの中ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

人乃位ハ限リハ書と見て書ル　大窪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

机[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　松茸[illegible]

青於集全部五卷

一樹菴楚山著

懷仙堂大巢校

一之卷　春季　既出板

二之卷　夏季　辰秋出板

三之卷　秋季　同冬出板

四之卷　冬季　来巳春出板

五之卷　雜句文章類　来巳夏出板

于時弘化甲辰
春之彼岸